

薬草園の花だより

第2号

2017年（平成29年）7月12日発行

■第2号に寄せて

このパンフレットの発行はほぼ毎月としたいのですが、当面は花の時期に合わせて不定期としています。ただ、このところ、花が次々と咲いては終わっています。季節の移ろいは早いものですね。今回はちょっと出遅れの感もありますが、アジサイとベニバナの開花を紹介しましょう。このパンフレットは、プリントアウトしたものを漢方資料館内のテーブルにも若干部数置いてあります。是非、手にとって見てください。（船山）

■今咲いています

《アジサイ》

アジサイ（アジサイ科）はいかにも梅雨時の雨に合う植物です。皆さんの中には、「確か、アジサイはユキノシタ科の植物だったのでは」と思う方がいらっしゃるに違いありません。実は、近年、アジサイ科という科が独立したのです。日本薬科大学の薬用植物園および周辺にはたくさんの種類のアジサイが植栽されており、見頃を迎えています。一株ずつ見て行くと色や形の変化も多く、楽しいですよ。写真の花も薬用植物園内にて撮影したものです。

そういえば、数年前に、季節の添え物として出されたアジサイの葉を誤食することによる食中毒が、大阪市とつくば市で発生しました。これは、おそらくアジサイの葉などに含まれるフェブリフジンとイソフェブリフジンがその原因物質かと思われます。これらのアルカロイドは、もともと、アジサイに近い仲間のジョウザンアジサイから得られた化合物ですが、その後、アジサイからも単離されました。解熱作用があることが知られていますが、毒性も強いようです。

ところで、アジサイにカタツムリは似合いそうですが、本当にアジサイにカタツムリはついているのでしょうか。私はかなりしっかりと見て回ったことが何回かありますが、そのような光景を見たことがありません。ある朝のTV番組で、女性レポーターが、「見てください。アジサイにカタツムリがいます」とカメラが回った途端にカタツムリがポロリと落ちたのを見て、大笑いをしたことがありました。多分、罪のない可愛らしいヤラセだったのでしょね。実際にアジサイにカタツムリがいるのを見たことがあるという人もいますが、皆さんはいかがでしょうか。是非、情報を知りたいです。そういえば、アジサイの葉は柔らかいのに虫害も受けていないと思いませんか。



《ベニバナ》

ベニバナはキク科の一年草です。ベニバナのふるさとはエジプトと言われます。それが、はるばると旅をし、すでに3世紀中頃にはわが国に至っており、現在わが国でその栽培の最も盛んなのは山形県というのですから、人間と植物の国際交流のロマンを感じます。ベニバナは染色や口紅の材料に使われる他、コウカ（紅花）と言う生薬名で日本薬局方にも収載されています。漢方では駆瘀血剤として、更年期障害など婦人の血行障害に伴う腹痛、冷え症などに用いられます。

ベニバナは、花びらを集めたのち、黄色い色素を水で洗い流し、紅餅と称されるものに加工します。かつては、加工したものは最上川の舟運を利用して酒田港に至り、そこから京都に運ばれました。そのためか、東北弁の中で山形弁は他の東北弁にない独特のなんとも言えない京風のやわらかい響きを持っています。実際に山形弁には京言葉と共通の独特の単語も使われていて、山形と京都とのつながりを感じさせます。

ベニバナの色素を研究された方に黒田チカさん（1884～1968）という日本最初の女子大生がいました。彼女はウルシ成分の研究などを行っていた東北帝国大学理科大学の眞島利行教授（1874～1962）の研究室においてこの研究を進め、その推定化学構造を最初に提出したのでした。残念ながらその化学構造には一部誤りがありましたが、色素成分カルタミン（カーサミン）の正確な化学構造式はその後しばらくして山形大学から提出されました。



ベニバナ

■他にも咲いています・咲き始めました

《ウィキョウ》

今、温室前で咲き誇っています。色彩的にはあまり目立ちませんが、近くでよく観察するとなかなか綺麗な花です。

《ヒマワリ》

小型のミニヒマワリはほとんど咲き終わりましたが、大型になるヒマワリはこれからが見どころです。薬用植物園内の池の東側に育っています。もう2mを超えました。

《ゲットウ》

日本薬科大学薬用植物園の温室には多くのショウガ科植物が栽培されています。その中で、草丈が3mにもなるゲットウ（月桃）が温室の天井に届くまで生長して花を付けています。ただ、もう終わりになりそうなので、見たい方は急いでください。西側の温室の西の端です。月桃は沖縄では邪気払いの植物とされているとか。

《ホソバセンナ》

別名チンネベリーセンナといい、葉を緩下剤として使用しますが、その花を見たことがありますか。今、東側の温室で黄色いきれいな花をつけています。だいぶ長く咲いていましたが、もう少しで終わりそうですから、見たい方は急いでください。

《チョウセンアサガオ類》

今、チョウセンアサガオ類の一部が咲き始めました。日本薬科大学薬用植物園にも何種類かのチョウセンアサガオ類が栽培されています。他の植物園も見て回ったことがありますが、この仲間の植物の分類は結構間違っていることが多く、しっかりと分類を確認しておかなければいけないと思っています。



ウィキョウ

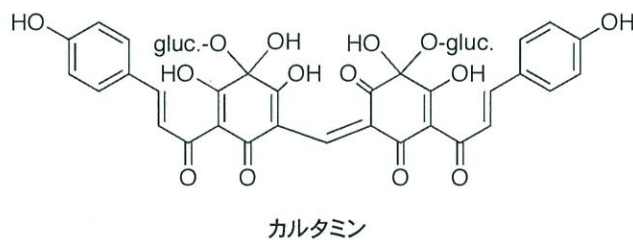
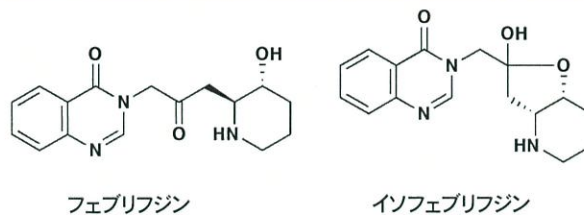
■薬用植物園からのお知らせ

《オープンキャンパスにおける薬用植物園の案内》

2017年7月23日（日）、オープンキャンパスにおいて、薬用植物園の案内を実施します。ある程度の人数が集まりましたらメガフォンを使用しての園内の植物の紹介を船山が担当します（今後は交代にて実施予定）。

■参考までに

《フェブリフジン、イソフェブリフジンおよびカルタミン（カーサミン）の化学構造》



発行：日本薬科大学薬用植物園運営委員会
委員長／船山信次
副委員長／山路誠一
委員（教員）／野口博司、西川由浩
新井一郎・糸数七重
委員（事務）／今村隆・笹井彰・鈴鹿和子
土屋翔太郎・天野崇教・高峰康行